

○小林委員 私からは、観光施策についてお伺いをいたします。

初めに、東京ブランドの海外発信についてですが、この十月に東京の観光PRで使われる新しいロゴ、&TOKYOが公表されて、私たちもこの二カ月弱の期間に、さまざまな機会に東京を旅行先としてのブランドとして宣伝する様子を見聞きしてまいりました。

観光地としての魅力をきちんと整理して、それを具体的なロゴという形にして、東京ブランドを数多くの旅行者にPRする取り組みが動き出したことは、オリンピック・パラリンピック大会に向け、さらに東京を国際的な観光都市に高める施策として重要であると思います。

こうした&TOKYOを使ったPRは、国内でまずは都民などに向けて展開していくことも必要であり、東京での理解も十分に広めた上で、海外向けの発信に力を入れることが重要になるものと考えます。

海外に向けて、東京を観光地のブランドとしてPRしていくために、今回の&TOKYOという取り組みを工夫を凝らして推進していく必要があると考えますが、見解をお伺いいたします。

○坂本観光部長 東京の国際的な観光都市としてのブランドを確立するため、その魅力を世界に向けて着実に発信する取り組みが重要でございます。

そのため、都は、&TOKYOの発表に合わせ、東京ブランドのイメージ映像をホームページや海外でのコマーシャルを通じて発信し、PRの充実に取り組んでおります。

また、ヨーロッパで規模の大きいロンドンの旅行博に出展いたしまして、パンフレットの配布や観光セミナーの実施などにより、東京ブランドのPRを実施しております。

さらに、海外メディアによる取材があった場合や、世界十二都市に設置している東京観光レップの活動を通じ、都内の最新の観光の状況について情報提供などを行って、観光地としての東京の魅力を伝えてまいります。

○小林委員 &TOKYOは、五つの東京独自の価値を伝統色の五色で表現し、伝統と革新が融合する東京の歴史と多様性を表現しているとのことですが、この趣旨をよく都民の皆様にも理解していただく取り組みも大切であると思います。

東京をブランド化するという事は、都民にとっても東京独自の価値を改めて発見し、また再認識していただき、東京ブランドに誇りを持っていただけるよう、わかりやすく積極的な都民向けの推進もお願いしたいと思っております。

東京を魅力ある観光地として海外の旅行者から認めもらうためには、それなりの準備をしてコストも投じて外国でPR活動をしっかりと行うことが不可欠であります。

その一方で、東京が海外からの観光にふさわしい都市として多様な魅力を提供することができるよう、都内の各地域の特色や特産品などをうまく活用し、紹介する取り組みも重要になると考えます。

都内では数多くのイベントがあり、その中で東京の地域ならではの生産品を宣伝する様子を目にする機会もしばしばございます。観光という面から集客力の高いイベントを選んで、

都内の地域の魅力を幅広く紹介して、東京ブランドを一層促進していくべきと思います。

東京では毎年、観光関係の事業者が出展する大規模な旅行博覧会も開催されておりますが、そうしたイベントで都として観光PRを積極的に推進していくべきであると考えますが、都の対応をお伺いいたします。

○坂本観光部長 東京の各地域の魅力について都内の規模の大きいイベントなどを活用して発信することにより、観光振興に結びつける取り組みは重要でございます。

都は九月に、我が国で最大級の旅行博覧会として国内外から十七万人の来場者があるツーリズムEXPOジャパンに出展いたしまして、東京の特産品の紹介や販売に加え、東京ブランドの発信などを行ったところでございます。

特産品につきましては、都内の各地域の工芸品や菓子類など約百種類の展示や販売などを実施いたしました。

また、東京ブランドについてコンセプトの内容をわかりやすく説明する大型パネルの展示を行うとともに、各種のアトラクションを実施してブランドに対する来場者の理解が深まる工夫を行ったところでございます。

○小林委員 外国人観光客に対する細やかな配慮の一つとして、多言語化は必須の取り組みであります。都内の公共的な道路や建物では多言語化も進んできておりますが、一方で、食事のために入った店の中では、メニューの内容がいまだに日本語だけで、店員も外国語ができないといった実態もまだまだ見受けられております。

観光において食の楽しみは欠かせないものであり、外国人観光客に心置きなく食を堪能してもらうためには、各店舗においてメニューの多言語化を推進していく取り組みが重要であります。

都では、IT技術を活用して、小さな飲食店でもメニューを外国語表記で作成できるEAT東京を開設していますが、都内の飲食店がさまざまな言語のメニューを簡単につくるための具体的な取り組みについてお伺いいたします。

○坂本観光部長 都は、飲食店が多言語でメニューを作成でき、外国人がこれを作成した店舗を検索することのできるウェブサイト、EAT東京の運営を行っております。

ウェブサイトの開設以降、電話での質問を受け付けるヘルプデスクによるサポートを実施するとともに、飲食店に利用方法をわかりやすく説明する研修会を年八回開催するなどの普及啓発に努めているところでございます。

こうした取り組みによりまして、ウェブサイト上で店舗情報やメニューを掲載する店舗数は、昨年度末時点の約百八十から約三百六十へと倍増しております。

これに加え、今年度はEAT東京の機能や操作などについて、利用者からウェブサイト上で意見を受け付ける仕組みを導入いたしました。今後は、こうした利用者の意見をシステムの利便性向上につなげることを予定しております。

○**小林委員** 次に、アニメを活用した観光振興について伺います。

いうまでもなく、アニメはクールジャパンを代表する日本のすぐれた文化であり、重要な観光資源であります。

私の地元練馬区は、日本のアニメ制作を本格的に始めたジャパン・アニメーション発祥の地であり、重要な産業資源、観光資源と位置づけております。

現在も九十社を超えるアニメ制作関連会社があります。毎年、大規模な練馬アニメカーニバルを開催し、区内外の多くのアニメファンが訪れております。

以前、あるアニメファンの方とお話をした際、練馬はアニメファンにとってはまさに聖地ですと話されておまして、ますますその魅力を高め、発信していかなければならないと思っております。

しかし、このような観光資源としてのアニメに関するものは、練馬区だけではなく都内各地に点在しております。

私は、本年の第一回定例会の一般質問でも取り上げましたが、都内に点在しているアニメ資源をいかに結びつけ、より躍動感を持った取り組みを行っていくかが重要であり、例えば都内の各地域に広がるアニメに関する取り組みを点で終わらせるのではなく、共通の観光資源として結びつけて見学ルートとして提供するような、点を面として捉えていく発想が大切になると考えております。

今後の外国人旅行者の誘致に向け、アニメの魅力を広く発信していくためにも、地域を超えてアニメを重要な観光資源としてさらに育て上げていく施策展開が必要であると考えますが、見解をお伺いいたします。

○**坂本観光部長** 海外から東京を訪れる旅行者をふやすため、各地域の観光資源の内容の充実を図るとともに、それらを組み合わせより効果の高い観光振興に結びつけていくことは重要でございます。

都はこれまで、地域のさまざまな観光資源を活用し、自治体の区域を超えて企画したアイデアを民間事業者のノウハウと結びつけて実現を図る取り組みを行ってまいりました。

今年度でございますが、武蔵野と三鷹にある地域の団体が協力してアニメーションをテーマとする展示を行うとともに、アニメに関連するスポットや周辺の和食の料理店などをめぐるイベントに対して支援を行ったところでございます。

今後は、広域的に連携し観光振興に取り組む地域の意欲に対応できるよう、支援の充実を図ってまいります。

○**小林委員** 今ご答弁にもありました武蔵野と三鷹の取り組み、これは地域資源発掘型実証プログラム事業による武蔵野市、三鷹市内の各アニメスタジオが所有する原画、コンテ、台本などを一堂に集めた外国人向けアニメ・漫画展示会ではありますが、先日、私の二十代の知人が実際に見学に行っていました。

武蔵野会場、三鷹会場ともに足を運んだそうではありますが、いずれも飲食店を活用した展示であったそうであります。

展示の仕方や展示数、イベントの広報の仕方などさまざま課題も見受けられましたが、店員さんに聞いたところによると、ふだんと比べ、このイベントの開催で外国人客も若干ふえた印象があるとのことでありました。

いずれにしても、実施した成果を都も掌握し、検証しながら、地域と都がより密に連携し、さらに価値あるものに高めていくことが大切になると思いますので、こうした隣接する地域を結びつけた取り組みをさらに支援しつつ、都も主体的に都内のアニメ資源を結びつけていく取り組みを推進していただきたいと思います。

一方で、アニメ資源を貴重な財産として後世に受け継いでいく取り組みも必要であります。アニメの作成の過程では手作業でセル画を描くわけですが、今は技術も進んで、コンピューターを使って画像処理を行う方法もふえているようです。

そうしたセル画は、アニメのファンだけではなく我が国の文化としても貴重で、しっかりと保存することが大切ですが、制作会社では保管する場所の確保ができずにいるのが現状との話も伺っております。

都ではアニメ・アーカイブ事業により、セル画を含めアニメの制作の中で使われるさまざまな資料について保存などを行っているようですが、都としては、そうした取り組みをしっかりと進めて、観光資源として生かしていったほしいと考えています。

アニメを東京の観光に役立てるため、さまざまな資料などの保存や活用など、積極的に取り組んでいくべきと考えますが、見解をお伺いいたします。

○坂本観光部長 東京の観光振興につなげるため、アニメーションの制作に関連するさまざまな資料の保存を適切に行って、旅行者の誘致に役立てることは必要でございます。

そのため、都は、アニメ・アーカイブ事業におきまして、アニメ制作工程における絵コンテ、原画、セル画などを資料として民間企業から提供を受け、整理や保管を行っているところでございます。

こうした資料につきましては、アニメイベントへの貸し出しを行うとともに、閲覧の対応もしているところでございます。

○小林委員 貴重な資料を収集し、整理し、保管していく。非常に地道な取り組みではありますが、このような取り組みは歴史的に見ても大変に大事なことであると思っております。

次元はちょっと違うかもしれませんが、横浜市に鎌倉時代の武将、北条実時が創設したとされる金沢文庫があります。いわゆる私設図書館のようなものでありますけれども、古今東西の政治、文学、歴史など、多岐にわたる蔵書を積極的に収集し、子孫にもこの北条実時の精神が受け継がれ、蔵書の充実が図られてまいりました。この金沢文庫で収集された資料によって、私たちは鎌倉時代のさまざまな要素を知ることができるようになっております。

アニメの資料という財産も、現代を象徴する貴重な日本の文化としてそれを後世に伝えていく責務があると思いますので、このアニメ・アーカイブ事業、地味ではあるかもしれませんが、都が主体的に、積極的に取り組んで、誇るべき財産の構築をお願いしたいと思います。

それとともに、ぜひとも収集された資料は、都民の目に広く触れる取り組みも推進していただきたいと思います。

例えば、資料を公開する拠点の整備や、メディアやSNSを活用した情報発信など、共有の財産という視点で広くその存在と価値を高めていく施策を展開していただきたいことを要望したいと思います。

我が練馬区はアニメ一番のまちを自負しております。本格的にジャパン・アニメーションが始まった一番最初のまち、さらに、アニメ産業に関連する会社が最も多く集まっているアニメが一番多いまちであります。

ぜひとも、こうした練馬区を初めとする各地域と連携を図りながら、アニメ・アーカイブ事業によって収集された貴重な資料の宝庫を中軸に、各地域に点在する資源を面として広げて、国内外の方々にそのアニメの魅力を発信していく展開を期待いたしまして、私の質問を終わります。